

会派みらい 政務調査報告

PART1

コロナ禍にある 航空機産業の行方

～世界の、日本の、飯田の今～

エアロスペース・飯田マネージャー 松島信雄 氏



エアロスペース・飯田 松島マネージャーに聞く

【問題提起】

- 新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大が、航空機の需要の激減から航空機産業への影響が危惧される。
- コロナ禍にあって、飯田の航空機産業の集積化促進を目指す方向性の今後について学ぶ。

1) 各国の航空機産業への支援策

- ・世界の主要な国は、テーマを先取りして新たな投資を行い、研究開発を重要視している。

＜フランス＞ 業界の雇用維持のための官需を増やす。(5,000億の支援) 中小企業の生産設備の近代化の促進。未来の航空機の研究開発。

コロナで手を引くのではなく、過去のコスト以上にかけ
て国策として新たな投資をしていく方向。

＜アメリカ＞ 重要産業として位置づける。5兆円の支援を行う。軍事に1.7兆円を支援。国策で支援を行う。

＜中国＞ 重要産業として位置づける。中国国内で認可を推進。

2) 日本の政策

○装備品の研究開発に視点を持つ。

- ・2019年度の総売り上げは1.8兆円。2030年までに3兆円を目標。日本としては、これからも変わらずに推進する国の姿勢がある。MRJの凍結があるが、重要な産業として支援を続ける方向。これらにより、航空機産業は持続的な成長が期待できる。
- ・次世代航空機の開発に、19.8億円(R2年予算は13.5億円)に増額。R3年度には、47.8億円(R2は28億円)の概算要求を考えている。
- ・脱炭素化、電動化、軽量化が進む。自動化、デジタル化の加速がある。コナは、将来の成長材料を見出す、成長戦略に転換するいい機会と言える。

3) 飯田の方向

航空PJの取組は、本業で活かされてきている。
地域全体で取り組んだことにより、人材育成が進んだ。

- まずは、本業を立て直す。
- 長い目で航空機産業を育てていく。
- 航空機産業を通して企業体質を強め、競争力の強化を上げる効果を目指す。

「エス・バード」 県の新しいビジョンにより、コンソーシアムが信州大学の正式な学部位置付けられていく。

エアロスペース・飯田

松島マネージャーに聞く

まとめ

- ★コロナに伴う世界経済の現状は、航空機産業への風当たりが強い（向かい風）が、人の世界的な移動はなくなることはない。
コロナによってむしろ「グリーントレンド」などによる新たな航空機の開発が加速される今後、世界の国々が航空機産業の強化を打ち出すなかにあっては、単に「航空機はコロナで先が見込めない」などとする論調とは異なる世界的な動きを知ることができた。
- ★加えて、「エス・バード」が、長野県の全県的な航空機産業の拠点としての位置づけが成され、信大の学部の位置づけが明確になることにより、当地域の航空機産業と、これを抱える当地域の産業界へのWithコロナ時代の将来への期待は大きい。

会派みらい 政務調査報告

PART2

地域の価値を活かす
いま、島根が
おもしろい！

～みんなでつくる中山間地～

はじめに

「今年度の会派の活動方針」

【政策的課題】

～リニア時代の交流に向けて～
地域資源を活かして
中山間地に生きる

なぜ、島根が面白い？

- 過疎は中国山地から始まった。『限界集落』だらけ。しかし・・・田園回帰が始まっている。
- 日本全体が人口減少社会に突入した中で、「人口の奪い合い」としての移住政策の上に、農山村の未来はあるのか、という疑問。

**★その「実践」を
視たい、聞きたい、話したい**

1. 視察地(島根県)



2. 視察先

・奥出雲町 「日本農業遺産」
資源循環型農業

・邑南町 「地区の小さな取組」
集落のやる気

・島根県庁 「小さな拠点づくり」
○県知事の意欲
○県の取組
中山間地域の活性化

共通テーマ

にぎやかな
過疎

奥出雲町 日本農業遺産

○日本農業遺産 とは

我が国において重要かつ伝統的な農林水産業を営む地域（農林水産業システム）を農林水産大臣が認定する制度。
全国で15地域が認定。（平成31年3月現在）

★奥出雲地域

【認定の名称】

「たたら製鉄に由来する奥出雲の資源循環型農業」

「たたら製鉄」？ ↘

奥出雲町 日本農業遺産

たたら製鉄

中世・近世の日本の鉄の一大産地であった出雲地方。
奥出雲町では日本刀の原料になる「玉鋼」を生産するため、
古代からの製鉄法「たたら製鉄」の炎が現在でも世界で唯一燃えている。江戸後期から明治初期にかけてが最盛期。

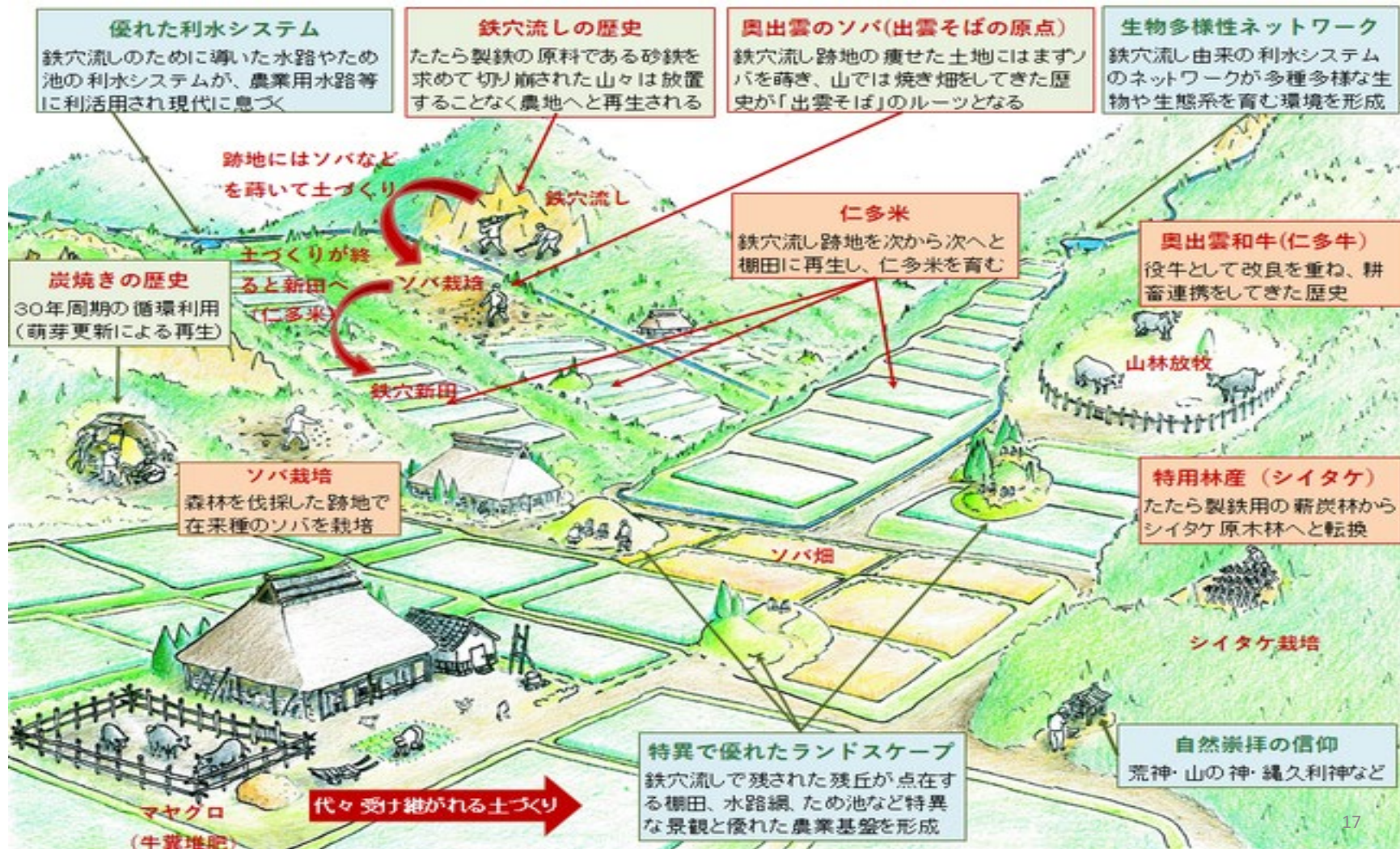
奥出雲の循環型農業

製鉄の鉱山跡地を棚田に再生し、採掘のために導いた水路やため池を再利用するなど、独自の土地利用により稲作や畜産を中心とした複合的な農業が営まれてきた。

奥出雲町 日本農業遺産



奥出雲町 日本農業遺産

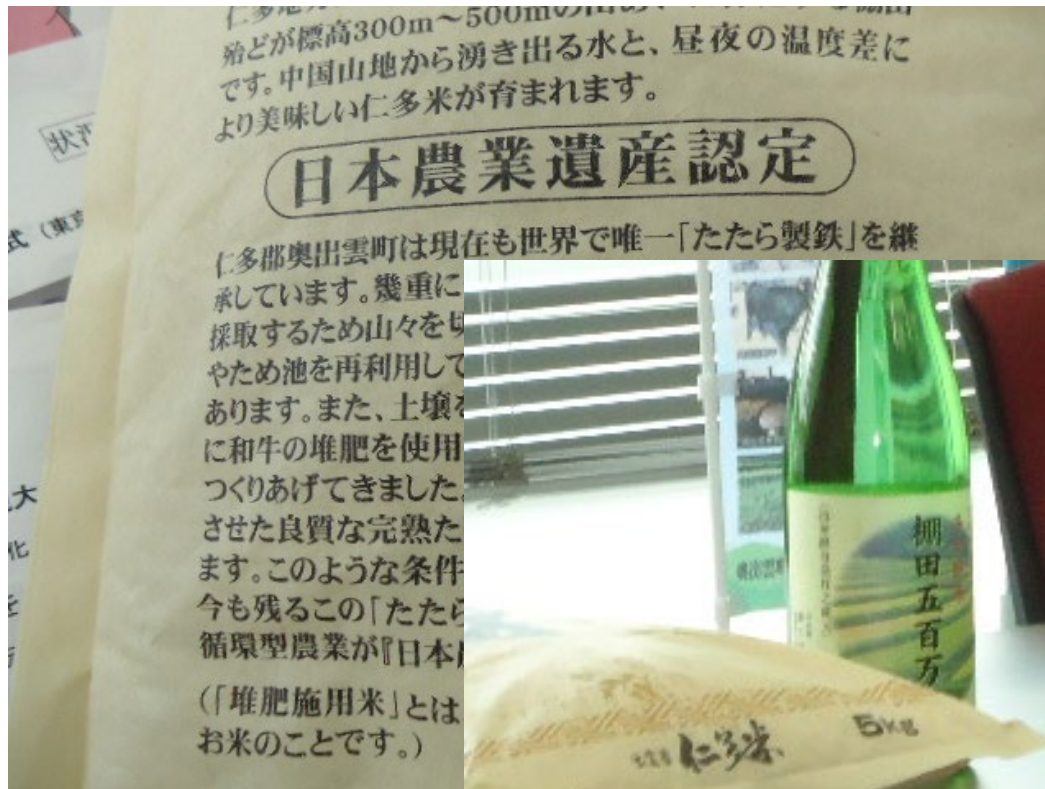


奥出雲町 日本農業遺産

○地域の宝を再発見し地域の活性化に繋げる

- ・たたら製鉄に由来する稲作、和牛、シイタケ、ソバの奥出雲町の特産品のブランド化をはじめ、農林畜産業が有機的に結びついて高品位な農産物を生み、当地域の農業生産額の約90%を占めている。
- ・農商工連携による農産加工品の開発や都市農村交流の促進、観光客の誘致による地域経済の活性化を目指す。

奥出雲町 日本農業遺産



奥出雲町 日本農業遺産



奥出雲町 日本農業遺産



邑南町 地域をあきらめない！



邑南町 地域をあきらめない！

「小さな拠点づくり」の実践

- ・小規模の地区単位でボトムアップ式に自治に取り組んできた地区
- ・邑南町内でもっとも人口の少ない地区（174人）
- ・活動は、「健康福祉」「定住促進」「農林振興」と大きく三つに分けられる

「布施公民館、銭宝地区」

邑南町 地域をあきらめない！

◆古民家を改修して開かれた「銭宝の寄り合い処」の存在。



邑南町 地域をあきらめない！

- ◆生活面ではまだ力のある60代が中心となり、「くらし応援隊」チームを結成。
 - 草刈りや配食サービスなど、ひとり暮らしの後期高齢者をサポートすサービスを提供する。
 - 加工所を使って集落の女性が中心になり 配食サービスも始まる。配食サービスを女性の仕事と片づけず「手伝えることがあれば」と足を向ける老人がいる。
 - 今まで行政がカバーしていたような仕事の多くを、地域できめ細やかに対応している。

邑南町 地域をあきらめない！



岡本公民館長

品川実行委員長

田村地域みらい課長

島根県 小さな拠点づくり



中山間地域・離島振興課 平田課長

＜県のHPより＞

- ・ 思い立ったら気軽にお電話ください。
- ・ 担当者がお伺いします。

島根県 小さな拠点づくり

中山間地域で安心して暮らし続けていくための 仕組みづくり

- 中山間地域では、人口の減少や高齢化が進み、日常生活に必要な機能の維持が困難となる集落が増えている。そこで、公民館エリアなど、より広い地域でまとまって日常生活をえる仕組みをつくるが必要になっている。
- 住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、様々な課題の解決が必要。そのために、知恵を 出し合い、計画をつくって、できることから少しずつ取り組んでいくことが「小さな拠点づくり」。

島根県 小さな拠点づくり

<ステップ>

- ①地域のことを知る ➡ 将来の地域の人口や高齢化率を「データで見る未来」で確認
※「島根県中山間地域研究センター」がデータを提供
- ②みんなで話し合う ➡ 暮らす地域でワークショップ(参加型、体験型の話し合い)など
- ③計画と体制をつくる ➡ 「地域づくり計画作成のワンポイント」
県が支援
- ④取り組み(実践活動)
の試行・改善・充実 ➡ 「小さな成功体験」を、ふりかえりの機会を持ち、成果や改善点を共有

島根県 小さな拠点づくり



島根県知事 丸山達也 氏(元飯田市副市長)と共に知事室にて

なぜ、島根が面白い？ まとめ

- ★何人移住したか、何人起業したか、という「量的」な結果のみを追いかけるのではなく、地域づくり戦略に合った移住者による地域のなりわいづくりが生み出されたかどうかという「質的」な結果にも目を向けるべき。
- ★地域をあきらめ、関わろうとする人が減りいなくなった時こそが本当の意味での地域の衰退であり、消滅である。離れていても、地域をあきらめず、応援し、盛り上げてくれる仲間こそが「関係人口」。住むか住まないかではなく、関わるか関わらないか。

なぜ、島根が面白い？ まとめ

「にぎやかな過疎」

=

人口減・人材増

会派みらい 政務調査報告

PART 3

会派の政務調査 4年間のまとめ

2017年度～2020年度

ご清聴ありがとうございました



会派みらい

